TADOKU JUNIOR　自然のふしぎ神話　★★★☆☆ ふつう　368語

The Story of the Pudding Stone

プディングストーンのお話

Flora J. Cooke（1895年の本）　原文そのまま　朗読：Linette Geisel

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　きょじんのお母さんが子どもたちのために作った大きなプラムプディング。でも、そのことを言いわすれて出かけてしまい……。



Once upon a time a family of giants lived upon the high mountains in the West.

One day the mother giant was called away from home.

She arose early in the morning and made ready the bread and butter for the little giants to eat while she was gone.

When she had finished her work it was not yet time to start upon her journey.

She said to herself, “My children are the best children in the world and they shall have a treat. I have many plums left from the Christmas feast. I will make them a plum pudding for a surprise.

The good woman brought together the plums which it had taken her many days to prepare with the help of all her children. Indeed she had emptied several mountain lakes to get water enough to wash them all.

She now mixed these wonderful plums into a pudding and put it into an oven to bake.

The mixing took so long that she had to hurry, and she quite forgot to say anything about the pudding to the little giants.

She had intended to tell them about it just before she left them.

It was afternoon when the giant children found the pudding.

It was badly burned upon the top by that time.

They had already eaten the bread and butter and were not hungry.

One little giant said to the others, “Let us make balls of the pudding and see who can throw the farthest.”

You know that giants are very strong, and away went the pudding up into the air.

The little giants made little balls and the older giants threw pieces as big as a house.

Many pieces went over the mountains and fell down into the valley beyond.

Indeed this wonderful pudding was scattered for miles over the whole land, for the giants did not stop throwing as long as there was any pudding left in the pan.

When the sun had shone upon it many days and dried and hardened it, people called it pudding stone.

You may find it to-day thrown all over the land, full of the plums which the good woman washed with the waters of many lakes.

和訳 プディングストーンのお話（The Story of the Pudding Stone）

むかしむかし、西の国の高い山の上に、きょじんの一家がすんでいました。

ある日、お母さんきょじんは、家をるすにしなければならなくなりました。

朝早く起きて、自分がいないあいだに小さなきょじんたちが食べるパンとバターを、用意しました。

仕事がおわっても、まだ出かける時間ではありませんでした。

お母さんは心の中で言いました。「うちの子たちは世界一いい子たちだから、ごちそうをあげましょう。クリスマスのごちそうの、ほしブドウ（プラム）がたくさんのこっているわ。びっくりさせるために、プラムプディングを作ってあげましょう。」

よいお母さんは、子どもたちみんなに手つだってもらって何日もかけて用意したプラムを、集めてきました。それどころか、全部をあらう水をたっぷりえるために、山の湖をいくつも空っぽにしたのです。

お母さんは、このすばらしいプラムをまぜてプディングにし、オーブンに入れてやきました。

まぜるのにとても時間がかかったので、お母さんは急がなければならず、プディングのことを小さなきょじんたちに話すのを、すっかりわすれてしまいました。

出かける前に、話しておくつもりだったのです。

きょじんの子どもたちがプディングを見つけたのは、午後になってからでした。

そのころには、プディングの上はひどくこげていました。

子どもたちはもうパンとバターを食べていたので、おなかはすいていませんでした。

小さなきょじんのひとりが、みんなに言いました。「プディングでボールを作って、だれがいちばん遠くまで投げられるか、やってみようよ。」

知ってのとおり、きょじんはとても力が強いので、プディングは空高くとんでいきました。

小さなきょじんの子どもたちは小さなボールを作り、年上のきょじんの子どもたちは家ほどもある大きなかたまりを投げました。

たくさんのかたまりが山をこえて、むこうの谷へ落ちていきました。

それどころか、このすばらしいプディングは、何キロにもわたって国じゅうにちらばりました。きょじんたちは、なべにプディングがのこっているかぎり、投げるのをやめなかったからです。

何日も日にてらされて、かわいてかたくなると、人々はそれをプディングストーンとよびました。

今でも、国のあちこちに投げちらされたプディングストーンが見つかります。よいお母さんがたくさんの湖の水であらった、プラムがいっぱいつまっているのです。

たんご と クイズ　プディングストーンのお話

giants	きょじん	**mountains**	山	**plums**	プラム（ほしブドウ）
pudding	プディング	**lakes**	湖	**valley**	谷
stone	石				

Q1 **お母さんきょじんがプラムをあらうために、したことは？**

① 雨をふらせた　② 山の湖をいくつも空っぽにした　③ 川をせき止めた

Q2 **きょじんの子どもたちは、プディングで何をした？**

① ボールにして投げっこをした　② みんなで食べた　③ お母さんにとっておいた

Q3 **プディングのことを、お母さんはなぜ子どもたちに話さなかった？**

① ないしょにしたかったから　② まぜるのに時間がかかって急いでいて、わすれたから

③ 子どもたちがねていたから

こたえ

Q1　②　全部をあらう水をえるために、山の湖をいくつも空っぽにしたのです。きょじんならではですね。

Q2　①　おなかがすいていなかったので、プディングでボールを作り、だれがいちばん遠くまで投げられるかきそいました。

Q3　②　まぜるのにとても時間がかかったので急いで出かけることになり、話すのをすっかりわすれてしまったのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30800（Flora J. Cooke、1895年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Linette Geisel（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。